

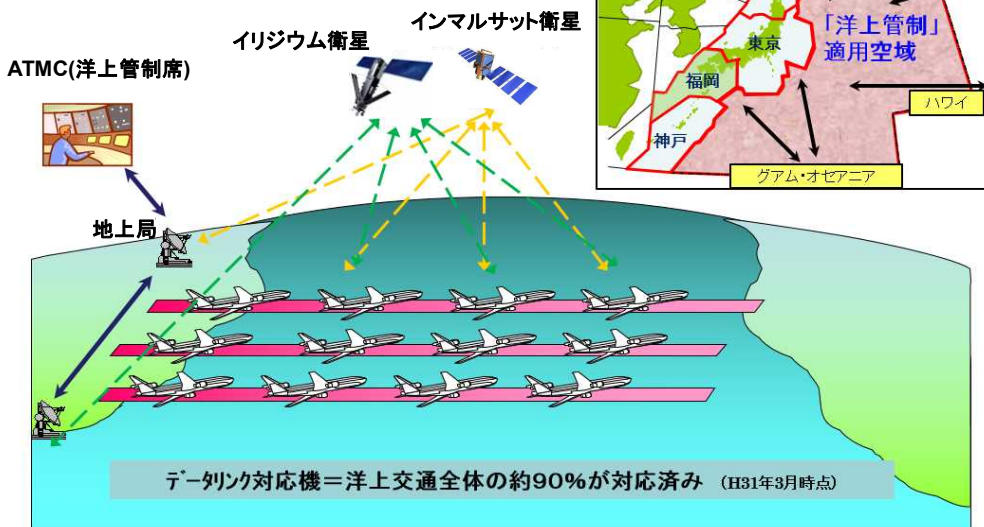
洋上管理(OCEANIC MANAGEMENT)

洋上管制では日本と各国間を飛行する航空機や福岡FIR(飛行情報区)を通過する航空機を管制しており、その管轄範囲は陸地から概ね200 km以遠の太平洋上である。航空会社がそれぞれ任意の経路で飛行していた時代は、各社の経路が輻輳していたり、接近しすぎていた為に、交通量が多くなると、空域の効率的な活用が難しい状態であった。そこで、ATMセンターは、高層風(ジェット気流)の変化に応じて経済性の高い飛行経路を日毎に設定し提供するPACOTS(Pacific Organized Track System)により、効率的で安全な非固定経路を提供するとともに、運航者が運航機材、運航時刻、気象状況等を考慮して作成する経路(UPR)及び、運航者が最新の気象状況等に基づき飛行中の航空機の経路変更を行う方式(DARP)を導入している。

また、太平洋上空の空域において人工衛星を利用した通信・監視技術により、対応機には管制間隔を短縮した効率的な洋上管制を実施している。今後は更なる効率的な交通流の実現のために、UPR及びDARPの適用区域拡大や、新たな方式について隣接する外国管制機関と共に検討を進めていく。

人工衛星利用による太平洋上での管制業務のイメージ図

- ◆データリンクによる業務実施
航空機の位置通報、高度変更要求・承認など
- ◆管制間隔短縮 ⇒ 交通容量を拡大



効率的な飛行経路の設定の例

